

平成30年 8月 8日

小野市議会議長 前田光教 様

議会運営委員会
岡嶋正昭

行政視察報告書

先般、実施しました議会運営委員会行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 平成30年 7月24日(火)～平成30年 7月25日(水)

2 視察メンバー

岡嶋正昭・加島 淳・椎屋邦隆・山本悟朗・山中修己・川名善三・
河島三奈・前田光教議長

3 視察先及び調査内容

(1) 滋賀県甲賀市(人口:約 9.1万人、面積:481.62K㎡)

議会だよりの編集について

議会活性化に向けた取組について

(2) 静岡県菊川市(人口:約 4.8万人、面積: 94.19K㎡)

議会活性化に向けた取組について

議会だよりの編集について

4 調査結果

【第1日】

滋賀県甲賀市(人口:約 9.1万人、面積:481.62K㎡)

議会だよりの編集について

議会活性化に向けた取組について



甲賀市役所：甲賀市水口町水口 6 0 5 3

≪視察内容≫

①議会だよりの編集について

説明者：林田議長・広報特別委員会田中委員長以下 7 名

呉竹議会事務局長・議事課職員 2 名

「甲賀市議会だよりの編集のポイント

- ・平成 16 年 10 月 水口・土山・甲賀・甲南・信楽の 5 町が合併して誕生。
甲賀市議会は、当初 82 名の議員で構成。議会広報特別委員会は 12 名。
平成 17 年 11 月より広報特別委員会は 8 名。
(各常任委員会から 2 名選出) 任期は 2 年。

発行回数

- ・年 4 回、定例会の翌々月に発行 (2, 5, 8, 11 月)

発行形態

- ・A4 サイズ・24 ページ (20 ページの場合もあり)
平成 30 年度から全ページカラーに
(印刷料 カラー印刷 0.72 円/ページ (税込) H30.4.1 現在)
- ・ページの構成の基本：1 段 15 字×25 行 4 段
- ・企画・編集：広報特別委員会

発行部数、配布方法

- ・発行部数 約 33,100 部
- ・配布方法 ①新聞折り込み (市内全域 30,400 部)
(新聞折込料 1.11 円/ページ (税込) H30.4.1 現在)
②新聞を購読していない市民へ約 600 部個別郵送
(個別に申し込み分のみ)
③公的施設やショッピングセンター等に設置

- ④音読CDの配布（平成28年度～）
視覚障害者の方（希望者18名）へ社会福祉協議会を通じて送付
音源作成は、平成28・29年度は市内ボランティアグループ
平成30年度は県立視覚障害者センターへ依頼している。
- ⑤議会報告会の会場で参加者へ配布。

企画から編集・発行までの流れ（編集委員会）

- 第一回 議会開会直後（ページ数、企画内容、大筋の担当、原稿依頼の締め切りを決定）
第二回 議会閉会直後（原稿を整理、割付作業、印刷業者に出稿）
第三回 初稿の校正（未原稿をチェックし、全体の構成を突き合わせ）
第四回 二稿目の校正（未原稿を埋める）
第五回 最終校正（二稿目で大きな訂正が無ければ正副委員長だけで校正）

編集のポイントと力点

- ・市議会の活動内容、市政にかかわる問題などを、市民に出来るだけわかりやすく、親しみのある紙面づくり。
- ・「議会ことば」ではなく、市民に分かりやすいことばで。

- ①表紙 = 広報誌の顔だけに、親しみのある写真を思い切り大きく
45号(H28.2.1)からタイトルを「こうか市議会だより」⇒「あなたとつなぐ 甲賀市議会だより」に変更
- ②裏表紙 表紙の写真との連携で「カメラの目」を掲載（14号～）
「こうか再発見」を連載。市内の花・原風景・文化財等を掲載
- ③2・3面に企画記事や特集
予算特集、決算特集、新春の抱負等
- ④各常任委員会・特別委員会の活動報告
- ⑤代表質問・一般質問
（原稿。写真は質問者が作成、提出）
1人あたり2分の1ページ（関連する写真・イラスト・図を必ず一点掲載）
タイトルはQ&Aの形（それぞれ15文字以内）
現行の文字数を80%程度に減らす。
QRコードを掲載
携帯やスマホから議会ホームページの議会録画映像を見てもらう。
⇒ 各議員の一般質問へリンクする。

編集における課題と今後にかすもの

- 企画記事・特集のページにどれだけ力を入れるか。
提出された原稿の書き方の改善
レイアウト・編集に工夫を。
表紙の写真取材

文字の大きさ

議会の臨場感が伝わる紙面構成

見出しの工夫・訴求力（本文への案内板、ガイド役）

《所 感》

伝わる市議会広報誌づくり 月刊「事業構想」自治体PRガイドによりますと、全国の多くの市町村で議会の情報を住民に広報誌で提供している。首都圏の中核的な都市・さいたま市議会が行った市民アンケートでも「市議会のことを知る方法」のトップに「広報誌」が挙げられている。アンケートでは、「いつも読んでいる」は60歳代で3割、50歳代以下では1割を切っていた。

“そもそも関心が低い”市町村議会（地方議会）は、生活に密着した審議をしているにもかかわらず、国会の方が身近だ、という人が少なくない。連日、テレビや新聞などマスメディアを通じて見聞きするからだ。

さらに、広報誌をめくったときの印象が難解で堅苦しく「付託された市長提出議案の審査」、「付託案件以外の各常任委員会所管事項」など、独特の議会用語が連発されており、読む気が失せる。との掲載がありました。

この様な状況下であり、早くから議会報への取組に力を入れてこられた甲賀市での視察でした。

先の視察内容を報告させて頂きましたが、先ずは表紙の写真の一新。報告記事もカラー化され目に留まりやすく編集されている。必ず項目毎に写真を一枚以上掲載。空間を生かした紙面づくりが出来ているようです。ただ、まだ文字が少し多いのかと感じたところです。最後の裏表紙には市民の方が関心を持たれるような話題の掲載に努力感を感じています。

小野市議会におきましても、“おの”らしさを表現し、市民の皆さまに手にして頂けるような広報誌づくりの参考にしていきたいと考えて取り組んでいるところです。

内容的には、写真を出来る限り多く取り入れ、文字を少なく読みやすい文書構成に、又、議案に対しては特に賛否の分かれた議案に対しては賛成・反対の討論の内容を分かりやすく掲載。又、市民の方々からの色々な意見の掲載等々、市民の方々に読んでもらえる「議会だより」となるよう取り組んでいきたいと思えます。

②議会活性化に向けた取組について

平成20年度 議会改革特別委員会設置 議員定数・一般質問・議会基本条例など議論を重ねる。

平成30年3月 第4次議会改革特別委員会を設置。 政治倫理条例の制定、タブレット導入等について協議を進める。

甲賀市議会基本条例 : 平成25年9月制定

まちづくり基本条例 : 平成28年3月制定

《平成29年改選以降の取組》

議員定数 27名 ⇒ 24名に

常任委員会数 4委員会 ⇒ 3委員会に再編

正副議長選挙に係る所信表明会の実施

議会報告会のリニューアル

常任委員会ごとにテーマを決め、市民との意見交換会の形式に

議会セミナーの開催

議会のICT化 タブレット導入等、議会中継のスマートフォン対応

《所 感》

「議会改革」の合言葉のもと改革の一環として市民との意見交換会を実施。議会からは常任委員会のメンバーが、テーマを決めての対応。又、議会内部としてはICT化やタブレットの導入、議会中継のスマホ対応へ。

小野市議会としては、まずは市民の方々との意見交換から入り、地域での問題点の抽出に取り組み議会活動に活かしていく取り組みとする必要性を強く感じています。

【第2日目】

静岡県菊川市（人口：約 4.8万人、面積：94.19Km²）

議会活性化に向けた取組について

議会だよりの編集について



菊川市役所：静岡県菊川市堀之内町6-1

《視察内容》

①議会活性化に向けた取組について

- ・市議会の活動に関する市民アンケートを実施
 - アンケート経費は政務活動費より一人20,000円負担

《アンケート調査結果の検証》

菊川市議会 議会活動内容の周知・情報発信不足

- ・親しみやすく、信頼される議会運営に向け、情報発信のあり方について
市民の皆さまから広く意見を伺い、取り入れながら 開かれた議会を目指していく。

市議会議員 市民の方との交流や意見を伺う機会が少ない。

- ・個々の議員が率先して、市民活動の場に足を運び、市民の皆様と対話し、意見交換をする。

議会改革 市民の皆様にとって魅力ある議会とは何か。

- ・皆様から頂いた意見（提案や課題）に対し、どのように進めているかの過程と、どうなったのかの結果について、随時お知らせし、市民の皆様と議員が一体となって、最善の方向に進むよう努力する。

○ 議会報告会 今後の課題

テーマ： 地域にテーマ ・誰もが興味のあるもの

報告会の位置づけ：政策討論会や各委員会活動との関連

議会改革での PDCA サイクル

多様性のある参加者増対策：託児、手話通訳、要約筆記等

参加者と議員が意見交換できる車座会議

：ワークショップ形式による対話の場

議会ふれあいミーティング「語ら座あ」に決定。

《所 感》

10年前に「議会基本条例」を制定され、議会改革に取り組んで来られていたが、平成28年の「市民アンケート」により、議員について・市議会について・市議会の情報について等々、全てにおいて市民の関心が低い。これらの調査結果を検証し、議会活動の新たな取組に生かそうと検討されているところでもあります。

先進地の視察等により、議会基本条例評価を実施。（まとめをし、今後の計画を検討）議会報告会の充実。一人でも多くの市民の参加を促し、議会の状況を報告し議会に関すること等を伝えていく努力を強く感じます。

小野市議会においても、地区区長会との意見交換会を実施していますがもっと広く意見交換会を行い、市民の方々との意思の疎通が出来るよう検討が必要ではないかと考えます。

②議会だよりの編集について（リニューアルに向けた取組）

目的

- ・議会だよりとは、
市民を代表する議会の活動を、市民に伝え、更には市民参加、市民自治につなげる最も身近なツールである。
- ・リニューアルの目的
より、手にとってもらい、読んでもらえる議会だよりとし、議会活動、議員活動を市民に分かりやすく伝えることで、市民との距離を縮め、開かれた議会を目指す。
議会活性化への取組、誰にでも分かりやすく親しみやすい広報の両立を図る。



《所感》

小野市議会においても「議会だより」の刷新について検討しているところです。この度の視察においても、市民アンケートからも情報の確認については議会だよりからが一番多かったとのことです。又、議会活動を知るツールとしては、「議会だより」からが最も多いですが、一方で「見たことが無い」も40%と少なくありません。（議会だよりのリニューアル化の検討が必要。）

定例会ごとに発行されている広報誌を市民の皆さんに興味を持っていただけるような紙面構成（表紙のあり方・定例会の報告・質問内容・議会の現状等々全てにおいて）の改善が何としても必要な状況と考えます。

平成 30 年 8 月 1 日

小野市議会議長 前田光教 様

議会運営委員会

加島 淳 ⑩

行政視察報告書

先般、実施しました 議会運営委員会 行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 平成 30 年 7 月 24 日（火）～平成 30 年 7 月 25 日（水）

2 視察メンバー

岡嶋 正昭
加島 淳
椎屋 邦隆
山本 悟朗
山中 修己
川名 善三
河島 三奈
前田 光教

3 視察先及び調査内容

(1) 滋賀県甲賀市（人口：約 9 万 1 千人、面積：481.62K m²）

- ①議会だよりの編集について
- ②議会活性化に向けた取組について

(2) 静岡県菊川市（人口：約 4 万 8 千人、面積：94.19K m²）

- ①議会だよりの編集について
- ②議会活性化に向けた取組について

4 調査結果

【第1日】

滋賀県甲賀市（人口：約9万1千人、面積：481.62K m²）



《視察項目》

- ①議会だよりの編集について
- ②議会活性化に向けた取組について

《視察内容》

①「甲賀市議会だより」編集のポイント

・甲賀市は平成16年10月水口・土山・甲賀・甲南・信楽の5町が合併して誕生。当初は在任特例で、82名の議員で構成。議会報特別委員会は12名。任期ごとに議員定数を減らし、現行定数は24名、広報特別委員会は8名。1期目の議員が中心となり構成されている。

発行回数 ・年4回、定例会の翌々月に発行

発行形態 ・A4サイズ・24ページ 平成30年からオールカラー
・印刷料 カラー印刷 0.72円/ページ（税込）
・発行部数 33,100

配布方法 ・新聞折り込み 新聞折り込み料 1.11円/ページ（税込）
・個別郵送 600部（新聞を購読していない市民）
・公的施設やショッピングセンター等に設置
・音読CDの配布
・市議会報告会の会場で参加者に配布

企画から編集・発行までの流れ
・5回の編集委員会を経て発行

編集のポイントと力点

- ・市議会の活動内容、市政にかかわる問題などを、市民にできるだけわかりやすく、親しみのある紙面づくり
- ・「議会の言葉」ではなく、市民に分かりやすい言葉で

- ・表紙＝「広報誌の顔」だけに、親しみのある写真を思いきり大きく
- ・裏表紙に「カメラの目」「こうか再発見」を掲載し市内の花の名所、原風景、文化財を紹介している
- ・2・3面に企画記事や特集
- ・各常任委員会・特別委員会の活動報告
- ・代表質問・一般質問（原稿・写真は質問者が作成提出）
- ・平成29.5.1号からQRコード掲載（携帯やスマホから議会録画映像を見てもらう。各議員の一般質問動画へリンク）

編集における課題と今後に生かすもの

- ・企画記事・特集のページにどれだけ力を入れるか
- ・議員個人から提出される原稿の書き方の改善
※書き方の統一・難しい言葉ではなく、わかりやすい言葉
- ・レイアウト・編集に工夫を
- ・表紙の写真取材
- ・文字の大きさ
- ・議会の臨場感が伝わる紙面
- ・見出しの工夫・訴求力（本文への案内板、ガイド役）

- 第24回近畿市町村広報誌コンクール「優秀賞」受賞
- 第25回近畿市町村広報誌コンクール「優良賞」受賞
- 第27回近畿市町村広報誌コンクール「奨励賞」受賞
- 第30回近畿市町村広報誌コンクール「優良賞」受賞

②タブレット導入の概要について

- ・議会ICT化の一環として導入を進めている。
- ・システムの仕様（ペーパーレス会議システム・グループウェアシステム）
- ・議員用タブレット25台、事務局・執行部用25台
- ・議会フロア無線LANルーターの設置（議場、委員会室、会派控室、事務室等）

《所 感》

甲賀市議会広報特別委員会は1期目議員を中心に、期の浅い議員で構成されている。編集に携わることにより、市の動きがよりわかりやすいと考えるため。編集のポイントは、市民に分かりやすい言葉で、親しみのある紙面づくり。表紙の写真は市内の「イベント・祭り」などを大きく表現している。印刷会社からのアドバイスを受けながら、市民の興味を引く表紙づくりを工夫している。裏表紙には表紙の写真を解説する「カメラの目」、市内の名所や原風景、花の名所を紹介する「こうか再発見」等の特集を組み、市民の注目をひいている。全ページカラー印刷で読みやすい。一般質問のページは、質問に関連する写真があり質問の内容が理解しやすいと感じる。

【第2日】

静岡県菊川市（人口：約4万8千人、面積：94.19K㎡）



《視察項目》

- ①議会だよりの編集について
- ②議会活性化に向けた取組について

《視察内容》

「議会だより」リニューアルに向けた取組

- ・目的 議会だよりとは・・・
 - ・市民を代表する議会の活動を、市民に伝え、さらには市民参加、市民自治につなげる最も身近なツールである。
- ・リニューアルの目的
 - ・より手に取ってもらい、読んでもらえる議会だよりとし、議会の活動、議員の活動を市民に分かりやすく伝えることで、市民との距離を縮め、開かれた議会を目指す
 - ・議会活性化への取組、だれにでも分かりやすく親しみやすい広報の両立を図る
 - ・要するに「議会のことを知ってほしい・議会に関心を持ってほしい・信頼される議会でありたい」ということをわかりやすく伝えることが重要
- ・リニューアル検討の経緯
 - 平成26年7月 東京都あきる野市視察
 - 《内容》 同市の議会報「ギカイの時間」は、第8回マニフェスト大賞のネット選挙・コミュニケーション戦略賞優秀賞受賞
 - ・議会だよりが手に取られていないのではないかという議会事務局職員の気づきから、「手に取ってもらえる表紙づくり」「気づきを与える表現方法や読みやすさの工夫」を目指して議会だよりを大幅リニューアル
 - ・大学生や子育て中のママなど読者ターゲットを選定して特集を組み、表紙も対

象者に合わせる。リニューアル後は従来の議会だよりのイメージを完全に覆すレイアウト内容。

- ・議員と職員による調査研究グループを立ち上げ、庁舎ロビーで他市の議会だよりを含めて市民調査、議会内プレゼンテーションを行い、議会としての合意形成を図るなど、実現に向けたプロセスにも学ぶべき点が多い。
- ・リニューアル検討内容
 - 1.興味を引く特集と表紙（ターゲットを決める）
 - 2.読みやすさ
 - 3.裏表紙
 - 4.議案質疑 一般質問

・菊川市の議会報リニューアルプロセス

○平成 27 年 7/1~21 日「議会だより」アンケート調査実施 場所：市役所 1F

- ・菊川市を含め 5~6 市の議会だよりを置き、アンケートを取る
- ・アンケートを取りまとめ、リニューアルの方向性を検討
- ・インターネット配信に合わせたリニューアルも検討

○市民へのアンケート結果

- ・回収数 54 枚
- ・議会だよりを読む頻度
 - ときどき読んでいる 65% 毎回読んでいる 31% 読まない 4%
- ・最も興味を持った（手に取りやすい表紙）は？
 - 1 位 あきる野市（議会という堅いイメージがない）
- ・最も興味を持った内容は？
 - 1 位 昭和町・あきる野市（図や写真、余白の使い方による読みやすさ）

・平成 27 年 10/27 業者を編集委員会に招き、具体的なリニューアル内容を協議

- 1.全体ページ数・紙質・色刷り
 - 16 ページ・マットコート紙・フルカラー
- 2.タイトルについて
 - きくかわ議会だより→「議会のひろば」
- 3.表紙について
 - タイトル・目次・季節のイベントの写真→すっきりしたデザイン・特集タイトル・目次・市内の隠れた観光（穴場）スポットの写真
- 4.巻頭の特集について
 - テーマを決めて市民との対談形式でインタビューを掲載
- 5.一般質問
 - 質問者の顔写真を入れる・テーマは 1 つ・質問と回答は 1 問 1 答形式・必ずイラストや写真を入れる
- 6.みんなの声
 - 市民の意見を募集し、掲載する

・政策討論会

(菊川市議会基本条例第 12 条)

- ・市政に関する重要な政策及び課題に対して、議会としての共通認識の醸成を図り、合意形成を得るため、開催する。

全議員が一堂に会し、各議員が個別の思いを建前でなく本音で、徹底的に意見交換を行うことが目的。

政策討論会の流れ

議会報告会などを通し、各議員現状の把握・課題検討（5 月）→全体会で提案の発表・すべての意見を表にまとめる（7 月）→3 回の各班で提言のまとめ→全体会で各班発表→幹事会で提言のまとめ→全体会で最終調整→市長への提言（9 月）→回答・予算へ反映→のローテーション

《所 感》

菊川市議会では、平成 27 年 4 月に市議会報編集委員の入れ替えを行い、「議会だより」のアンケート調査を行った。その後、同年 10 月に業者を交え、具体的なリニューアル内容を協議している。全体のページ数・タイトル・表紙・巻頭の特集・一般質問・みんなの声等で議会報を刷新した。

「議会のひろば」と題した新議会報は、紙面へのこだわりを感じる。手に取ってもらえる工夫、表紙のタイトル・写真・雰囲気は素晴らしいと感じた。

紙面の字数も極力減らし、読める量に絞り込んでいる。1 ページ目に「特集記事」を載せ、読者の興味を引きターゲットを絞り込んでいる。

平成30年8月6日

小野市議会議長 前田 光教 様

議会運営委員会
椎 屋 邦 隆

行政視察報告書

先般、参加しました議会運営委員会の行政視察結果について、下記の通り報告致します。

記

1. 視察実施日 平成30年7月24日（火）～平成30年7月25日（水）

2. 視察メンバー 議会運営委員会委員、議長、(随行)事務局長

3. 視察先及び視察項目

(1) 滋賀県甲賀市（人口：9.1万人、面積：481.62Km²）

- ① 議会だよりの編集について
 - ② 議会活性化に向けた取組について
- 甲賀市役所：甲賀市水口町水口6053

(2) 静岡県菊川市（人口：4.8万人、面積：94.19Km²）

- ① 議会だよりの編集について
 - ② 議会活性化に向けた取組について
- 菊川市役所：菊川市堀之内61

4. 視察内容

第1日 7月24日（火）13時30分～

滋賀県甲賀市役所5階第1・2委員会室

甲賀市議会議長 林田 久充 氏

広報特別委員会委員長 田中 将之 氏他6名の市議会議員

議会事務局 呉竹 弘一 氏他2名

1. 議会だよりの編集について

(1)資料より「甲賀市議会だより」編集のポイント

甲賀市の成り立ち 平成16年10月、5町が合併して誕生

甲賀市議会は、現在、議員定数24名。議会広報特別委員は、各常任委員会から2名選出、任期は2年。

(2)発行回数 ・年間4回、定例会の翌々月に発行（2，5，8，11月）

(3)発行形態 ・A4サイズ・24ページ（20ページの場合もあり）
平成30年度から全ページカラーに
（印刷料 カラー刷り0.72円/ページ（税込）H30.4.1現在
・ページ構成の基本：1段15字×25行 4段
・企画・編集：広報特別委員会

(4)発行部数、配布方法

- ・発行部数 約33,100部
- ・配布方法
 - ①新聞折り込み（市内全域 30,400部）
（新聞折り込み料 1.11円/ページ（税込）現在
 - ②新聞を購読していない市民へ約600部個別郵送
 - ③公的施設やショッピングセンター等に設置
 - ④音読CDの配布（平成28年度から）
視覚障がい者の方（希望者18名）へ社会福祉協議会を通して送付。
音源作成は、平成28・29年度は、市内のボランティア団体
平成30年度は県立視覚障がい者センターへ依頼している。
 - ⑤議会報告会の会場で参加者へ配布

(5)企画から編集・発行までの流れ

- 【第1回】議会開会直後（ページ数、企画内容、大筋の担当、原稿依頼の締切決定）
- 【第2回】議会閉会直後（集まった原稿整理、割付作業をして、印刷業者に出稿）
- 【第3回】初校の校正（未原稿をチェックし、全体の校正をつき合わせ）
- 【第4回】2校目の校正（未原稿を埋める）
- 【第5回】最終校正（2校目で大きな訂正がなければ正副委員長だけで校正）

(6)編集のポイントと力点

- ・市議会の活動内容、市政にかかわる問題などを、市民にできるだけわかりやすく、親しみのある紙面づくり。
- ・「議会ことば」ではなく、市民にわかりやすいことばで。

①表紙＝「広報誌の顔」だけに、親しみのある写真を思い切り大きく。

創刊号～5号は、市広報の撮影した写真を採用。

6号～広報特別委員が取材・撮影した写真を採用。

- ・45号～タイトルを「こうか市議会だより」⇒「あなたとつなぐ甲賀市議会だより」
甲賀流忍者の街らしさを出すため、「こうか」を漢字に改めて、堅苦しくならないよう平仮名の「あなたとつなぐ」を入れた。

②裏表紙

- ・ 14号～表紙の写真との連携で、「カメラの目」を掲載。
- ・ 29号～「こうか再発見」を連載。市内の花の名所、市内の原風景、市内の文化財等を掲載。

③2・3面に企画記事や特集

- ・ 予算特集、決算特集、新春の抱負など。

④各常任委員会・特別委員会の活動を報告

- ・ 何が課題であったのかを記事にする。

⑤代表質問・一般質問

(原稿・写真は、質問者が作成し提出する)

- ・ 一般質問は一人1/2ページ
関連する写真やイラストや図を必ず一点掲載。
- ・ タイトルはQ&Aの形(それぞれ15文字以内)
- ・ 48号～文字数を減らし、余白を増やした。
写真1枚の場合 620字→510字
写真2枚の場合 560字→450字
- ・ 50号(H29.5.1)～QRコード掲載
携帯やスマホから議会ホームページの議会録画映像を見てもらう。
各議員の一般質問動画へリンクする。

(7)編集における課題と今後に生かすもの

- ①企画記事・特集のページにどれだけ力を入れるか。
- ②議員個人から提出される原稿の書き方の改善。
※書き方の統一。難しい言葉ではなく、わかりやすい言葉で。
- ③レイアウト・編集に工夫を。同時に時間をかけない。
- ④表紙の写真取材
- ⑤文字の大きさ
- ⑥議会の臨場感が伝わる紙面
- ⑦見出しの工夫・訴求力(本文への案内板、ガイド役)

(8)近畿市町村広報紙コンクールでの各種賞受賞時の審査評を記載(省略)

2. 議会活性化に向けた取組について

平成20年に議会改革特別委員会を設置し、議員定数、一般質問、議会基本条例など議論を重ねてきた。

平成30年3月より第4次議会改革推進特別委員会を設置し、現在、政治倫理条例の制定、タブレット導入等について協議を進めている。

- ・ 甲賀市議会基本条例(平成25年9月制定)
- ・ まちづくり基本条例(平成28年3月制定)

[平成29年改選以降の取組]

- ・委員会の再編
29年10月に改選（議員定数27人→24人）
4 常任委員会（総務、民生、文教、産建）を3 常任委員会（総務、厚文、産建）に再編 ※同時開催をやめた。
予算・決算特別委員会を常任委員会とし、議長を除く全議員が委員
- ・正副議長選挙に係る所信表明会の実施。
- ・正副委員長等の議会人事をドント方式で決定。（順番にするようになった。）
- ・委員会の異時開催。
- ・一般質問時に電子パネルを採用。
- ・代表質問を受けた、一般質問通告書の修正受付。
- ・議会報告会のリニューアル
常任委員会ごとにテーマを決め、市民との意見交換会の形式。
- ・議会セミナーの開催。
市が課題とするテーマで先進事例を学ぶ勉強会
市職員、関係団体も参加可
- ・委員長北国の簡略化。
- ・委員会資料等の事前配布。
- ・政務活動費の領収書をHPで公開。
- ・議会のICT化。タブレット導入等 議会中継のスマートフォン対応
- ・議会だよりのフルカラー化。

【 所 感 】

- ・議会だよりが、平成30年度から全ページカラーになったのが斬新的である。
- ・議会だよりの音読CDを平成28年度から、視覚障がい者の方（希望者18名）に社会福祉協議会を通して送付しているのが、障がい者福祉を徹底しているところであると思う。小野市でも取り入れたいことである。
- ・市議会だよりの編集のポイントが、「議会ことば」ではなく、市民にわかりやすいことばで、親しみのある紙面づくり。としているところがとても良いと思う。
- ・代表質問や一般質問の欄には、関連する写真やイラストや図を必ず一点掲載も良い。
- ・QRコードから各議員の一般質問動画へリンクする仕組みが斬新でとても良い。
- ・議会改革では、代表質問を聞いてから、自分の質問を変更できるという柔軟性が良い。小野市議会が参考にできる事例が数多くあった。

第2日 平成30年7月25日(水) 13時30分～

場所 菊川市役所 4階 協議会室

菊川市議会議長 内田 隆 様

菊川市議会議員 倉部 光世様

菊川市議会議員 小林 博文様

市議会事務局長 五島 將行様

1. 議会だよりの編集について

表紙「議会のひろば」

- ・今月の特集 例、ものづくりに懸ける思い 商工会工業部会に聞きました
例、子ども達に生きる力を 幼稚園教諭・保育士に聞きました
- ・コンテンツの表示
- ・特色ある風景の写真 ・棚田 ・ヤギの放牧等

内容

- ・定例会の審議結果 ・賛否が分かれた議案一覧表
- ・菊川市各会計当初予算額
- ・代表質問や一般質問では、議員の写真がフルカラーで載っている。
- ・議員の質問内容を充実させて、議員の主張を載せる方針でいる。
- ・質問と答弁の記事に、カラー写真やイラストを必ず入れてソフトな紙面に。
- ・「みんなの声」で、「傍聴者よりの声」と議会の返事を載せている。
- ・「議会活動ニュース」として掲載することもあり、「議会活動レポート」として掲載することもある。その内容は、「市長へ提言した内容に対する回答」「行政視察の結果」「行政視察の受け入れ状況」「議会報告会の愛称(ネーミング)の決定報告」「議会図書館の説明と市民が閲覧できることの広報」等
- ・「議会豆知識」という欄で、「一般質問」や「市議会の仕組み」などの説明を市民にわかりやすくしている。

裏表紙

- ・「きかせてママの声」欄では、菊川市に住むお母さんのメッセージを掲載。
- ・次回の定例会の予定 ・傍聴、陳情・請願、市民説明会の開催要求について
- ・表紙の写真の説明 ・編集後記

2. 議会活性化に向けた取組について

議会改革の取組み

平成20年第1回臨時会 議会改革特別委員会設置(7名)

平成20年3月18日 菊川市連合自治会から議会改革に関する要望書提出

平成20年5月14日 菊川市市制を考える住民の会から議会改革に関する要望書提出

平成20年6月議会 議員定数削減議員発議

平成20年9月議会	選挙公費負担制度創設
平成21年第1回定例会	議会基本条例の制定 議員報酬見直し（修正案により1年据え置き） 政務活動費の交付に関する条例の制定 議会改革特別委員会（全員）設置
平成21年4月	執行部主催の各種審議会・団体からの撤退
平成21年6、7月	第1回議会報告会開催（11自治会）以降毎年開催
平成22年10月	第1回政策討論会開催 以降毎年開催
平成27年7月	各定例会における議会運営委員の報告書提出開始
平成27年第3回定例会	定例会映像配信開始
平成28年5月	菊川市議会の活動に関する市民アンケートの実施 全25問
平成28年5月発行	議会だよりNO、47より リニューアル
平成28年10月12日	議員アンケートの実施 全17問
平成29年11月10日	議会基本条例評価を実施、まとめをし、今後の計画検討
平成29年12月4日～	
平成30年1月12日	議会報告会のネーミング募集

○市議会の活動に関する市民アンケートの分析と検証、今後の方針等

- ・市議会議員の活動をよく知っているのは、5.4%。知らないが、40.2%
- ・市議会が監視機能を果たしているかは、分からないが60.9%。概ねが22.7%。
- ・市議会に期待しているかは、している10.2%。どちらかといえばしている55%。
- ・議会だよりを毎回読んでいる21%。時々読んでいるが54%。いいえが24%。
- ・特に力を入れてほしい議会改革は、市民に魅力ある議会活動20%。資質向上20%。
- ・開かれた議会を目指して、「議会だより」のリニューアルを！
- ・「議会だより」とは、市民を代表する議会の活動を、市民に伝え、さらには市民参加、市民自治につなげる最も身近なツールである。

【 所 感 】

- ・市民にとって、読みやすい、わかりやすい、親しみやすい議会だよりをめざしていたのが良い。議会側が読んでほしい量と市民が読める量の差を縮めて、写真やイラストをいれた一般質問欄は、前日に訪問した甲賀市でも同じで、見習うべきことであると感じた。
- ・「きかせてママの声」という記事欄や「傍聴者の声」という欄で、市民の声を載せているのも大いに参考になった。「小野市議会だより」にいかせるのではないだろうか。
- ・議会改革には、特別委員会を設立して10年かけて継続してきている重い歴史があった。
- ・議会基本条例を静岡県で最初に作った市である。この条例も参考になると思う
- ・執行部主催の各種審議会や団体から脱退したという意義について熟考をしていきたいと思う。

平成 30 年 7 月 26 日

小野市議会議長 前田 光教様

議会運営委員会

山 本 悟 朗 ⑩

行政視察報告書

先般、実施しました議会運営委員会行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 平成 30 年 7 月 24 日（火）～平成 30 年 7 月 25 日（水）

2 視察メンバー

議会運営委員会委員 7 名、議長

3 視察先及び調査内容

(1) 滋賀県甲賀市（人口：約 9 万 1 千人、面積：481.62K m²）

議会だよりの編集について

議会活性化に向けた取組について

(2) 静岡県菊川市（人口：約 4 万 8 千人、面積：94.19K m²）

議会だよりの編集について

議会活性化に向けた取組について

4 調査結果

【第1日】

滋賀県甲賀市

人口：約9万1千人、面積：481.62K m²

《視察項目》

議会だよりの編集について

議会活性化に向けた取組について

《視察内容》

議会だよりの編集について

概略

発行は年間4回、定例会の翌々月の1日に新聞折り込みを中心に配布

平成30年からはフルカラーで発行、A4サイズ24ページ

発行部数は33,100部(人口約91,000人)

表紙以外2色刷からフルカラーへの変更で1冊あたり1円のコストアップ

企画・編集は8人の議員で構成する広報特別委員会を実施

委員会のメンバーは3つの常任委員会から若手を中心に選出

音読CDを配布している。

コンセプト

市民にわかりやすく、親しみのある紙面づくり

→写真、イラストを散りばめ、スッキリした構成に

議会ことば、行政用語ではなく、市民にわかりやすい言葉

議決の効果としての行政の動きは市の広報で市民に伝達

→議会報では決定までのプロセスを示す。

一般質問の掲載ページにはQRコードを記載し、該当する質問の動画へ誘導

企画から編集発行までの流れ

- | | |
|-------------|--------------------------|
| ①定例会開会直後 | ページ数、企画内容、大筋の内容(特集記事の決定) |
| ②定例会閉会后1週間 | 各ページの原稿締め切り。印刷業者に出稿 |
| ③閉会后15日頃 | 未出稿原稿のチェック。全体のバランス、校正 |
| ④⑤ | 2校の校正、最終校正 |
| ⑥定例会の翌々月の1日 | 発行 |

議会報の最新号 2018年5月号を添付

議会活性化に向けた取組について

平成25年9月 議会基本条例制定

平成28年3月 まちづくり基本条例(自治基本条例)制定

平成29年度以後の取組の内、気になったもの

議会報告会のリニューアル

議会の活動報告

→常任委員会毎にテーマを決め、市民との意見交換の場に

議会セミナーの開催

市が課題とするテーマについて、議会が主催して、職員・関係団体を巻き込んだのセミナーを開催

タブレット端末の導入

全議員にタブレットを配布、会議に出席する理事者側にもタブレットを渡し、会議のペーパーレス化を実施。

議員はグループウェアシステムに参加し、スケジュール、ファイル管理を実施。

【第2日】

静岡県菊川市

人口：約4万8千人、面積：94.19K㎡

《視察項目》

議会だよりの編集について

議会活性化に向けた取組について

《視察内容》

議会だよりの編集について

概略

発行は年間4回、定例会の翌々月の15日頃に区長便にて配布

平成28年からはフルカラーで発行、A4サイズ16ページ

発行部数は15,000部(人口約48,000人)

年間契約額1,118,880円(一冊単価18.6円)

企画・編集は5人の議員で構成する議会報企画委員会で実施

委員会のメンバーは2つの常任委員会から各2人+副議長

コンセプト

@議会のことを知って欲しい

@議会に関心を持って欲しい

@信頼される議会でありたい

→わかりやすく伝えることが重要

市民にわかりやすく、親しみのある紙面づくり

→文字数を少なくして、スッキリした構成に

議会ことば、行政用語ではなく、市民にわかりやすい言葉

議決の効果としての行政の動きは市の広報で市民に伝達

→議会報では決定までのプロセスを示す。

特色のある取組

- 各号巻頭に特集ページを組み、市民との対話を掲載
(子育てママ、いきいきサロン、商工会議所等)
- 市議会に対する市民の声を「みんなの声」として掲載

議会報の最新号 2018年5月号を添付

議会活性化に向けた取組について

平成21年 議会基本条例制定

平成27年 全議員にタブレットを貸与し、会議のペーパーレス化を実施。

取組の内、気になったもの

議会報告会の変化

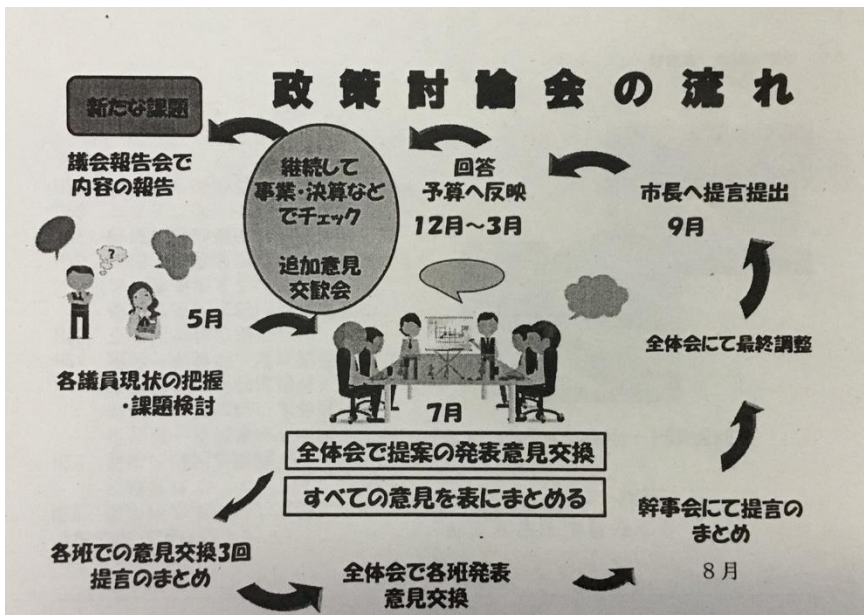
議会の活動報告(決まったことを知らせる)

→毎年度テーマを決め、これからについて市民との意見交換の場に

政策討論会の定期的な実施

年度毎にテーマを決め、全議員が参加して、政策テーマの調査討論を行い、理事者側への提案。提案の執行チェック迄を行なっている。

平成28年 公共交通政策 平成29年 高齢者の認知症対策 平成30年 地域医療



《所感》

議会だよりの編集、発行については、甲賀・菊川、両市ともに、議会報のための委員会を設置し、2年任期で企画、編集作業を担当している。

両市共に、文字数を少なく、わかりやすい編集を心がけておられる。

小野市議会でも今年度から、議会報の編集見直しが進められており、向かっている方向は両市と同じように感じていることから、大いに参考になった。

両市の説明を伺ううちに、議会報とは「議会をPRする雑誌」と考える位が丁度いいと思うに至った。今後しばらくはこの基準で議会報を考えていきたい。

議会改革については、「議会報告会」で説明することから、意見を聞くことにシフトしていることが興味深い。

菊川市で伺った「政策討論会」については、とても大切なことだと思う。

しかしながら、実施はしていても効果が見られない議会のお話を度々伺う。

方法は様々、効果がなくては意味がない。

小野市議会でどう取り組むかをより前向きに考えたい。

平成30年 8月 7日

小野市議会議長 前田 光教 様

議会運営委員会

山中 修己 ⑩

行政視察報告書

先般、実施しました議会運営委員会行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 平成30年 7月24日（火）～平成30年 7月25日（水）

2 視察メンバー

岡嶋正昭委員長、加島淳副委員長、椎屋邦隆議員、山本悟朗議員、前田光教議長、川名善三議員、河島三奈議員、山中修己 以上8名
随行者：岸本浩幸局長

3 視察先及び調査内容

(1) 滋賀県甲賀市（人口：約9.1万人、面積：481.62Km²）

- ①市議会だよりの編集について
- ②議会活性化に向けた取組について

(2) 静岡県菊川市（人口：約4.8万人、面積：94.19Km²）

- ①市議会だよりの編集について
- ②議会活性化に向けた取組について

4 調査結果

【第1日】

滋賀県甲賀市

人口：約9.1万人、面積：481.62Km²

≪視察項目≫

- ①議会だよりの編集について
- ②議会活性化に向けた取組について

≪視察内容≫

面接者：議会事務局長 吳竹弘一氏、課長 藤田文義氏、主事 北野名美氏
市議会議長 林田久充氏、広報特別委員会委員長 田中將之氏、
副委員長 橋本恒典氏、谷永兼二氏、岡田重美氏、奥田宏嗣氏、
堀 郁子氏、糸目仁樹氏各委員

甲賀市は工業出荷額が滋賀県 NO.1 である。昨年、今年と連続して、当市へ視察にきていただいております。今回、我々に対する応対も、議長を初め、広報特別委員会メンバーほぼ全員出席していただく歓迎ぶりであった。

庁舎は新しく、応接の部屋も1人ずつマイクが設置してあり、立派な会議室であった。総工費は65億円である。

以下、視察内容について記す。

1. 議会だよりの編集について

「市議会だより」については議員自らがつくることを基本にしている。広報特別委員会はメンバー8人で、各常任委員会から2名ずつ選出される。1期目の議員が選出されることが多く、委員長の希望者も少ない。

平成19年9月号で、第24回近畿市町村広報誌コンクール「優良賞」、第25回「優良賞」、第27回「奨励賞」、第30回「優良賞」を其々受賞されている。

広報特別委員会の要綱は作成している。

1) 発行回数

定例会の翌々月の1日、年間4回発行している。

2) 発行形態

○A4サイズ・24ページ(20ページの場合あり)…一般質問は20人位している。参考までに広報も24ページである。

○H30年からオールカラー、印刷料0.72円/ページ

3) 配布方法

○新聞折り込みを市内全域に配布(折り込み料1.11円/ページ(税込)H30.4.1現在)
…広報も同様の方式をとっている。

○新聞を購読していない市民へは郵送している。

- 公的施設やショッピングセンター、議会報告会等に設置
- 音読 CD の配布 (H28 年度～)

4) 企画から編集・発行までの流れ

- [第 1 回] 議会開会直後 1 日 (ページ数、企画内容、担当、原稿の締切決定)
- [第 2 回] 議会閉会直後 1 日 (原稿を整理、印刷業者に出稿)
 - …閉会后、1 週間以内が原稿締め切り (当市も同じ)
- [第 3 回] 初校の校正 (未原稿をチェックし、全体の校正をつきあわせ)
- [第 4 回] 2 校目の校正 (未原稿を埋める)
- [第 5 回] 最終校正 (ほぼ正副委員長だけで校正)
 - …発行月の前月末に新聞折り込みの段取りを行う。

5) 編集のポイントと力点

市民にわかり易いことばを使うことを心がけている。議会の決議事項については、特にお知らせしたい内容を詳しく、わかり易く記載するようにしている。(全体の内容は「広報」に記載されているため、議会だよりとの差別化を図っている。)

6) 編集における課題と今後に生かすもの

- ・企画記事・特集のページに力を注ぐ
- ・議員個人の前稿の書き方の統一。わかり易いことばで。
- ・レイアウト・編集に工夫を。同時に時間をかけない。
- ・表紙の写真取材
- ・文字の大きさ
- ・議会の臨場感が伝わる紙面
- ・見出しの工夫・訴求力 (本文への案内板、ガイド役)

2. 議会活性化に向けた取組について

議長が説明された。

平成 20 年に議会改革特別委員会を設置し、議員定数、一般質問、議会基本条例などの議論を重ねてこられた。平成 25 年 9 月に「議会基本条例」、平成 28 年 3 月には「まちづくり基本条例 (自治基本条例)」が制定されている。

平成 30 年 3 月から第 4 次議会改革推進特別委員会を設置し、政治倫理条例の制定、タブレット導入等について、協議されている。

[29 年改選以降の取組]

- 定数が 27 人から 24 人になったのを機に、4 常任委員会を 3 常任委員会とし、予算・決算特別委員会を変更し、議長を除く全議員参加の常任委員会とした。
- 一般質問時に電子パネルを採用
- 議会報告会のリニューアル
 - …常任委員会毎にテーマを決めて、実施するようになり、参加者から建設的な意見が出てくるようになった。参加人数は 1 回 30～70 人である。

○議会セミナー開催

…市が課題とするテーマで先進事例を学ぶ。市職員、関係団体も参加可。当市にもきていただいた龍谷大学土山教授と甲賀市議会林田議長とは10年来の知己とのこと。

○議会にタブレット導入

…議員用及び当局用のタブレットを全員分導入。議員分のみ通信機能付き。

《所 感》

時代の流れであろう。「議会だより」については、全て広報特別委員会メンバー8人が24ページ分を編集しておられる。議会事務局は内容のチェックのみとのことで、敬意を表すべきである。当市は現行12ページで、一般質問記事の原稿のみ議員が作成している現状とでは、雲泥の差がある。翌日、訪問する菊川市さんも参考にしながら、唯一議会から市民へ発信するツールとして、「議会だより」の充実に精力を注いでいく必要があると感じた。

【第2日】

静岡県菊川市

人口：約4.8万人、面積：94.19Km²

《視察項目》

- ①市議会だよりの編集について
- ②議会活性化に向けた取組について

《視察内容》

面接者： 議会事務局長 五島将行氏
市議会議長 内田隆氏、市議会報編集委員長 倉部光世議員
総務建設委員 小林博文議員

菊川市は人口約4.8万人、面積94.19Km²と小野市とほぼ同等規模であるが、自動車でインターから街中を通った印象からすると、数キロにわたり、田園風景は見当たらず、近隣市でいうと三木市のような感じであった。庁舎は築33年とのことであるが、総レンガづくりで、芸術的な建物であった。議場などはどこかの劇場のような感じがした。ただ、レンガの部分等かなり傷みがあり、補修費用がかかるであろうと思われた。

産業は一部上場企業がなく、大井川の隣に茶畑があるそうで、菊川茶が主産業である。予算規模は通常150～170億円である。

以下、概要を記す。

1. 議会だよりの編集について

平成26年から議会報のリニューアル検討に取組、あきる野市視察、議会だよりアンケート調査等を行った。その結果をもとに、業者を編集委員会に招き、全体のページ数、紙質、色刷り、タイトル、表紙及び内容を具体的に協議し、平成27年12月定例会号からリニューアルを行った。

編集委員は5人で常任委員会(2つ)から各2名、副議長とで5名である。任期は2年であるが、委員長倉部氏は長くされているとのことである。

議会事務局(4人)との役割分担は、定例会概要、議会活動レポート、みんなの声(傍聴意見等)の原稿は事務局が担当し、特集、一般質問、議会豆知識、聞かせてママの声、編集後記等の原稿は編集委員又は議員が担当している。

1) 発行形態

A4サイズ16ページ。平成27年10月から12ページを16ページ、フルカラーに変更した。契約額はリニューアル前12ページ2色約100万円、リニューアル後16ページ4色フルカラー16ページ約112万円。

2) 配布方法

区長便が月2回、初旬と中旬にあり、議会だよりは広報と共に、議会閉会后、翌々月中旬便で配布している。

なお、市内金融機関、病院、郵便局等公共施設へは、議員が担当を決めて足を運び、保管されているファイルに追加している。

3) 企画から編集・発行までの流れ

[1回目]本会議中に編集委員会(発行スケジュール、ページ担当者の決定)

原稿締め切りは本会議閉会1週間後

[2回目]本会議翌月2週間後編集委員会(入稿前確認、編集委員・各課への校正依頼)

[3回目]本会議翌月3週間後(編集委員・各課への校正締め切り)

初校、2校、色校正、校了を納品日までに行う。

[納品・発行] 本会議翌々月10日頃納品、中旬発行

4) 発行のポイント

興味を引く特集と表紙、読みやすさ(導線、ホワイトスペース、統一感)、裏表紙、行政用語を通じる言葉になど。あきる野市を見習ったつくりになっている。

5) 今後の課題

- ・担当者が変更になった後の継続性
- …因みに委員長倉部氏は長く委員長をされており、発行までは毎日登庁している。
- ・表紙…より目にとまるものを。
- ・内容…もっとわかりやすく、見やすく。
- ・みんなの声をいただくための工夫(クイズ・プレゼント)
- ・読者の意見聴取やフィードバック…次号へのつながり

- ・議会の想いだけになっていないか
- ・任期3年目後半に定期的な見直しを行う。
- ・コスト意識
- ・広報広聴委員会の設置検討

2. 議会活性化に向けた取組

議員定数は17名。政務活動費は年間1人10万円で活動されている。

平成21年に議会基本条例を制定されている。

以下、主な取組について記す。

1) 市民アンケートの実施

平成28年に市内在住の市民(有権者)2,000人を対象に、市議会の活動に関するアンケートを実施し、結果を検証し議会改革につなげている。

2) アンケート調査結果の検証

○市議会

議会活動内容の周知・情報発信不足。

→市民の皆様から広く意見を伺い、取り入れながら、開かれた議会を目指していく。

○議員

市民との交流や意見を伺う機会が少ない。

→個々の議員が率先して足を運び、市民と対話し、意見交換をする。報告会の開催や広報誌を発行し、情報発信に努める。

○議会改革

市民にとって魅力ある議会とは何か

→市民の提案や課題に対し、どのように進めているかの過程と、どうなったかの結果について、随時お知らせし、市民と一体となって、最善の方向に進むよう努力する。

3) 議会報告会ネーミングを募集し、議会ふれあいミーティング「語ら座あ」(方言をもじっている)とした。

4) 政策討論会

全議員が一堂に会し、各議員が本音で、徹底的に意見交換を行い、市長へ提言をしている。当局は出席しない。過去のテーマについては以下のとおり。

テーマ:定住化促進、防災、人工減少問題・農業問題・消防団員確保の問題・原子力発電所避難計画、公共交通政策、高齢者の認知症対策、地域医療を守るには

5) 議員研究会

予算10万円で有識者を招いて、講義をしてもらっている。龍谷大学の土山教授も講演してもらっている。

《所 感》

菊川市は人口、面積、予算規模どれをとっても、小野市と似通っており好感がもてた。議会だよりの取り組みについては、編集委員5人で精力的に行っている印象である。1回の編集で5人全員が集まるのは3回位とのことであるが、委員長はほぼ毎日、登庁しているとのこと。

当市の議会だよりに関する改善は、いきなり甲賀市並みに、全面的に議員が編集していくのではなく、菊川市のように、事務局と共同で進めるのがベターではないかと感じる。ただ、菊川市の委員長が言われていたように、議員の負担度合に差がでてくるため、何らかの手当等を考慮する必要があると思う。

議会活性化については全議員による「政策討論会」が行われており、議会としての共通認識の醸成を図り、合意形成を得るためにも、是非とも必要であると思う。

以 上

平成30年8月7日

小野市議会議長 前田 光教 様

議会運営委員会

川 名 善 三

Ⓜ

行政視察報告書

先般、実施しました議会運営委員会行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 平成30年7月24日（火）～平成30年7月25日（水）

2 視察メンバー

川名善三・前田光教・河島三奈・山中修己・加島淳・岡嶋正昭・山本悟朗
椎屋邦隆

3 視察先及び調査内容

(1) 滋賀県甲賀市（人口：約9万1千人、面積：481.62Km²）

- ①議会だよりの編集について
- ②議会活性化に向けた取組について

(2) 静岡県菊川市（人口：約4万8千人、面積：94.19Km²）

- ①議会だよりの編集について
- ②議会活性化に向けた取組について



【甲賀市庁舎】



【菊川市庁舎】

【第1日】

滋賀県甲賀市

(人口：約9万1千人、面積：481.62Km²)

《視察項目》

- ①議会だよりの編集について
- ②議会活性化に向けた取組について



《視察内容》

1) 議会だよりの編集について

甲賀市は平成16年10月に5町合併により発足、当初82名の議員定数から、現在24名となる。広報特別委員会は、8名（各常任委員会より2名）で任期は2年となっている。

①発行回数

・年間4回（2，5，8，11月）定例会の翌々

月1日発行

②発行形態

- ・A4、24（20）ページ、平成30年度から全ページカラー化
- ・経費：0.72円／ページ（税込）
- ・編集は写真も含め広報特別委員会

③発行部数、配布方法

- ・発行部数：約33，100部
- ・配布方法：
 - 新聞折り込み（市内全域30，400部）
 - 新聞未購読市民へは個別郵送（約600部）
 - 公共施設、ショッピングセンター等に設置
 - 音読CDを社協を通じて送付（希望者18名）、作成は県立視覚障害者センターに委託（平成30年度）
 - 議会報告会の会場で参加者へ配布

④ 企画⇒編集⇒発行

- 第1回 開会直後（内容の検討：ページ数、大筋の担当など）
- 第2回 閉会直後（原稿整理、割付、業者へ出稿）
- 第3回 初校の校正（未原稿チェック等）





第4回 2校目の校正 (未原稿埋め)

第5回 最終校正 (大きな訂正がなければ正副委員長で校正)

⑤ 編集のポイントなど

市議会の活動内容、市政にかかわる問題などを、市民にできるだけわかりやすく親しみのある紙面づくりを行うとともに、「議会のことば」ではなく、市民にわかりやすいことばで表現する。

○表紙：親しみのある写真を思い切り大きくする。(広報特別委員が撮影)

○代表質問・一般質問：一人1/2ページとし、必ず関連する写真やイラストを1点掲載する。タイトルはQ&A (15文字以内)
原稿、写真は質問者が作成、50号 (H29.5) よりQRコードを掲載し、スマホから議会録画映像を見ることができる。

⑥ 編集における課題など

- ・企画記事・特集のページにどれだけ重点をおくか
- ・議員個人からの原稿の書き方の改善
- ・時間を掛けずにレイアウト、編集に工夫する
- ・表紙の写真取材
- ・見出しの工夫、訴求力など



2) 議会活性化に向けた取組について

①正副議長選出にかかる所信表明会の実施

②正副委員長等の議会人事をドント方式で決定

③委員会の異時開催

④委員会の再編

- ・平成29年10月改選より4⇒3常任委員会に再編

- ・予算・決算特別委員会を常任委員会とし議長を除く全議員が委員

⑤議会報告会のリニューアル

- ・常任委員会ごとにテーマを決め、市民との意見交換会の形式とした。

- ・議会だよりのフルカラー化

- ・議会のICT化

 - ・タブレットの導入、議会中継のスマホ対応

⑥議会セミナーの開催

- ・市が課題とするテーマで先進事例を学ぶ勉強会（市職員、関係団体も参加可）



【議 場】

【第2日】

静岡県菊川市

人口：約4万8千人、面積：94.19Km²

≪視察項目≫

①議会だよりの編集について

②議会活性化に向けた取組について

≪視察内容≫

○菊川市議会の議会改革

【主な取組みの流れ】



平成20年	9月	議会改革特別委員会（7名）
平成20年	3月	連合自治会から要望書
平成20年	5月	三重県伊賀市議会視察
平成20年	6月	定数削減発議
平成21年	1月	一般選挙・第1回定例会議会で議会基本条例を制定 議会改革特別委員会設置
平成21年	4月	執行部主催の各種審議会・団体から撤退
平成21年	6月	第1回議会報告会開催
平成22年	10月	第1回政策討論会開催
平成25年	1月	一般選挙
平成27年	3月	定例会映像配信開始
平成28年	5月	議会活動に関する市民アンケートの実施
平成28年	5月	議会だより47号よりリニューアル
平成28年	10月	議員アンケートの実施
平成29年	1月	一般選挙
平成29年	10月	京都府亀岡市、兵庫県西脇市へ行政視察
平成29年	12月	議会報告会のネーミング募集

○市民アンケートについて

- ・ 調査地域・・・菊川市全域
- ・ 対象者・・・市内在住20歳以上の男女を住民基本台帳から無作為抽出
- ・ 調査期間・・・平成28年5月2～25日
- ・ 配布回収方法・郵送配布/郵送回収

◇ アンケート調査結果の検証

菊川市議会⇒議会活動内容の周知・情報発信不足

市議会議員⇒市民との交流や意見を伺う機会が少ない

議会改革⇒市民の皆様にとって魅力ある議会とは何か

○議会報告会

- ・ 当初予算成立後おおむね3か月以内に地区自治会単位で1地区年1回開催する。
- ・ 内容は議会の活動に関すること。予算審議に関することなど重要と認められる事項
- ・ 報告書を議長に提出、広報誌・市ホームページへ掲載し、市行政への重要な案件は市長へ報告
- ・ 10回目を迎え、親しみやすいネーミング



10月2日に小笠地域の慰霊祭が総合体育館で、11月8日に菊川地域の慰霊祭が文化会館アルエルで行われた。2度の慰霊祭で疑問を感じて質問しました。

① 主催者は市か、市役所とも静岡県静霊委員会菊川支部が主催である。

② 慰霊祭の目的は、慰霊、失われた命の重さを世で考え、戦争の痛ましさを風化させないことを目的としている。

③ 年間補助金額と慰霊祭経費は、市連合会へ75万4200円を補助しており、経費は平成29年度の場合、菊川地域が約62万円、小笠地域が約45万円である。

④ 私も戦争の痛ましさを風化させない慰霊祭にすべきと考える。慰霊祭を第一部として行い、第二部を平和の集いとして、子どもたち

⑤ 市連合会は、歴史講演、作文発表や合唱、歴史講座、さらには遺族会の方から体験を直接話していただくなど、戦争をしない平和を望む遺族を市民が共感でき、参列者の数が増えることを後世に引き継ぐことができると思うが、市長はどのように考えるか。

⑥ 開催内容を検討する必要はあると思う。遺族会の方々と課題を共有し、より良い開催方法に向けた話し合いを継続していく。

⑦ 他に「合併3年後の問題は、小笠川端し原中継橋について」について聞きました。



議会活動ニュース

議会ふれあいミーティング「語り座あ」を開催します！

菊川市議会は、市時に開かれた議会・市民参加促進された議会を目標として、毎年議会の活動内容を市民の皆さまに伝え、議員および市民が自ら情報をふりかき意見を交換する「議会報告会」を毎年開催しています。

本年度は、10回目の節目を迎えるにあたり、議会報告会のネーミングを募集した結果、議会のふれあいミーティング「語り座あ」としてスタートします。

市内11地区・地区自治会単位の会場において開催し、平日や夜間に参加できない方や地区会場に参加できない方を対象に、土曜日の午前中に全体会を開催します。昨年度に新たな試みとして実施した付箋を活用した意見収集、意見交換を今年度も引き続き実施します。

本年度の全体会は、7月21日（土）に開催予定です。

全議員が4班に分かれ、各地区で議会活動を報告し、皆さんと議員交換をします。是非「語り座あ」に参加いただき、ご意見伺いたしたいと思います。お待ちしております。

各地区の開催工程につきましては、後日配布予定の回覧物や菊川市議会ホームページにてご確認ください。

付箋を活用して意見を収集

を募集し『議会ふれあいミーティング「語ら座あ」』に決まる。

- ・ 本年6月よりワークショップ形式を導入

○議会だよりのリニューアル

① 目的

市民を代表する議会の活動を市民に伝え、さらに市民参加、市民自治につなげる最も身近なツールである。市民により手に取ってもらい、読んでもらいたい議会だよりとし議会や議員の活動を市民にわかりやすく伝えることで、市民との距離を縮め開かれた議会をめざす。

② あきる野市を視察⇒市民アンケートの実施

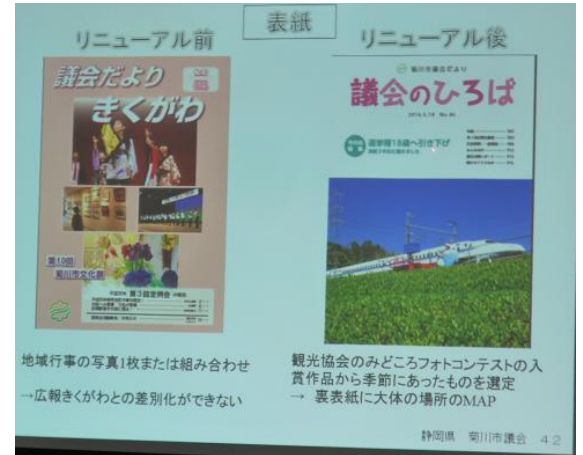
- ・ シンプルでフリーペーパーのように手に取りやすいものが好評

③ リニューアル後の内容

- ・ ページ構成：16ページ・マットコート紙・フルカラー
- ・ タイトル：菊川市議会だよりの 議会のひろば
- ・ 巻頭の特集：テーマを決めて市民との対話形式でインタビューを掲載
- ・ 一般質問：質問者の顔写真とイラストや写真を入れる。
- ・ みんなの声：市民の意見を募集し、掲載する。

④発行部数、配布方法

- ・ 発行部数：約15,000部
- ・ 配布方法：○全戸配布（回覧）
○金融機関、病院等にファイル設置（議員が担当し届ける。）



⑤課題等

- ・ 担当者が変更になった後の継続性
- ・ みんなの声を頂くための工夫⇒クイズ、プレゼントなど
- ・ 読者の意見聴取やフィードバック
- ・ コスト意識 等

○政策討論会

全議員が一堂に会し、各議員が個々の思いを建て前でなく本音で、徹底的に意見交換を行うことが目的⇒基本条例に基づき実施



【議 場】

《所 感》

甲賀市及び菊川市の議会だよりにおいては、全国的にも認められている編集がなされており、①全ページのフルカラー②文字を少なく、写真を大きく見やすい構成③市民や読者からの投稿④一般質問欄での写真、図表の掲載⑤編集や写真撮影も議員が行うなど、共通したものが多く、これまでの内容重視の議会だよりから極力、写真や文字スペースを多く取り、読みやすさを重視したものへ変わっていく様子が伺えた。議会改革においても一問一答方式（反問権を含む）の採用や議会報告会（意見交換会）などの実施や菊川市での ICT 機器の導入など、近年の議会改革の流れが踏襲されている。議会報告会においては、テーマを決めての意見交換会やワークショップ形式の導入など、単なる議会からの報告ではなく、市民参加型へ変わってきており、今後、各市の独自の方法を模索すべく、議論が重ねられている。

平成 30 年 8 月 6 日

小野市議会議長 前田光教 様

議会運営委員会

河 島 三 奈

㊟

行政視察報告書

先般、実施しました議会運営委員会行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 平成 30 年 7 月 24 日（火）～平成 30 年 7 月 25 日（水）

2 視察メンバー

岡嶋正昭委員長 加島淳副委員長 椎屋邦隆委員、山本悟朗委員、
山中修己委員 川名善三委員、前田光教議長、河島三奈 随員 岸本局長

3 視察先及び調査内容

(1) 滋賀県甲賀市（人口：約 9 万 1 千人、面積：481.62K m²）

1) 議会だよりの編集について

座学にて、議会だより編集担当、広報特別委員会の 8 名の委員の方に、経緯の説明をして頂き、質疑応答の時間を設けた。

担当 甲賀市議会 広報特別委員会委員

2) 議会活性化に向けた取組について

同じく座学にて、議会だより編集の取組の説明の後に、議会改革の取組について説明して頂き、質疑応答の時間を設けた。事前質問あり。

担当 上記と同じ

(2) 静岡県菊川市（人口：約 4 万 8 千人、面積：94.19K m²）

1) 議会だよりの編集について

座学にて、議会だより編集担当委員会の委員長に説明を受け、そのあと質疑応答の時間を設けた。事前質問あり。

2) 議会活性化に向けた取組について

議会だよりの編集と同じ枠内での説明（二つのテーマを一括説明）を受け、その後質疑応答の時間を設けた。

4 調査結果

【第1日】

滋賀県甲賀市

人口 約9万1千人 面積 481.62K㎡

≪視察項目≫

- 1) 議会だよりの編集について
事前質問あり
- 2) 議会活性化に向けた取組について
事前質問あり

≪視察内容≫

1) 議会だよりの編集について

甲賀市における議会だよりの編集、発行

8名の議員からなる広報特別委員会の委員がすべて行っている。広報特別委員会の任期は2年で、4つある常任委員会（総務、厚生文教、産業建設、予算決算）から2名ずつ、主に1期目の議員で構成されている。1期目の議員を主に持ってくる理由は、議会広報を作ること、議会のことが良く解るようになるからということであった。

発行回数

これまでと同じ年4回、定例会2か月後の1日発行で、形態はA4サイズ、20～24ページ、平成30年度からフルカラーに刷新、ページ構成の基本は1段15字×25行の4段である、一般質問が毎回20名ほどあるので、ページ数は多くなっている。

発行部数と配布方法

発行部数は約3万3千部で、配布方法は①新聞折り込み、②新聞購読をしていないところは個別郵送（約600部）、③公的施設やショッピングセンターなどに設置、④音読CDの配布（平成28年～）視覚障害者の方へは社会福祉協議会を通して送付、⑤議会報告会で参加者に配布の5つが基本。課題としては新聞を2紙取っているご家庭には議会だよりの2部配布されてしまうので、ロスが出ること。

企画・編集・発行までの流れ

約5回の工程があり、

第1回議会開会直後でページ数、企画内容、大筋の担当、原稿依頼（一般質問）、原稿提出の締め切りを決定

第2回議会閉会直後、集まった原稿を整理、（一般質問の原稿だと、内容も確認もする）割り付け作業（手書き原稿にレイアウトをつくる）をし、印刷業者に出稿、

第3回初校の校正、（未原稿のチェック、全体の校正を付き合わせる）

第4回2度目の校正、(未原稿を埋める)

第5回最終校正(大きな修正がなければ正副委員長だけで校正)

一般質問の所は、原稿だけでなく使用するイラスト、写真も質問した議員が用意する。行政側の説明文などを除いて作成作業には極力事務局の手を借りないようにしている。

編集のポイントと力を入れている点

議会の活動内容や、市政に関わる問題など、市民にできるだけ「わかりやすく」「親しみのある」誌面を作ることに努力している。俗にいう、「議会ことば」ではなく、市民に解りやすい言葉を使うようにしている。

表紙

創刊から5号までは、市広報の撮影した写真を採用していた。6号からは広報特別委員会の委員が撮影した写真を採用している。また、45号からはタイトルの文字の形や、漢字かひらがな等の変更、キャッチフレーズも考えて入れるなど、常によりわかりやすく読んでもらえるようにと考えている。

裏表紙のコーナー記事

表紙の写真の選定場所や、理由を綴った「カメラの目」や市内の様子を連載していた「こうか再発見」の連載をしていた。55号からは全議員の紹介等にまた変えていくらしい。

内容

今までより「審査の目」を重要視し、委員会付託を増やし、各常任委員会、特別委員会の活動を報告する。委員長に原稿を任せているが、どうやって独自性と、全体の統一感をもたせるのが課題である。一般質問の記事は、各議員本人に任せているが、公平性の観点から、文字数を制限し、より見やすくするために余白を増やした。50号からはQRコードを掲載し携帯、スマホなどから議会の録画映像を見てもらえるように、各議員の一般質問動画へリンクしている。

課題と今後に生かすもの

- ①企画記事や特集記事にどれだけの力を注げるか。
- ②議員個人から提出された原稿の書き方の改善など(様式の統一、言葉の使い方)
- ③レイアウトと編集にもっと工夫がいる。時間の短縮など。
- ④表紙の写真の素材
- ⑤文字の大きさは適切か。
- ⑥議会の臨場感が伝わる紙面
- ⑦見出しの工夫や訴求力をどう出すか。



※甲賀市議会

2) 議会活性化に向けた取組について

平成20年に議会改革特別委員会を設置、議員定数、一般質問、議会基本条例等の議論を重ねた。平成30年より第4次議会改革特別委員会を設置、現在政治倫理条例の制定、タブレット導入等について協議を進めている（平成30年8月の段階で、タブレット導入済）。平成25年9月制定の議会基本条例の中に、議会だよりの充実を図るという条文あり。議会に対する市民参加の検証、実証、具体的な評価を出していく予定。

平成28年3月制定のまちづくり基本条例では市民参加、情報公開、説明責任とあり、課題の発見から情報を公開することになっている。

委員会

平成29年10月に改選し、委員会を再編した結果、4つあった常任委員会を3つにし、予算・決算特別委員会を常任委員会とする（議長を除く全員が委員）。

役員選挙

正副議長選挙に係る所信表明会の実施

正副委員長の議会人事をドント方式で決定

委員会の異時開催

一般質問時に電子パネルを採用

代表質問を受けた後の、一般質問通告書の修正受付

議会報告会のリニューアル

議会セミナーの開催

委員長報告の簡略化
委員会資料等の事前配布
政務活動費の領収書をHPで公開
議会のICT化
議会だよりのフルカラー化

このうち、市民に対して影響の大きい改革は、議会報告会で、従来の決まったことの報告ではなく、常任委員会ごとにテーマを決め、市民との意見交換会の形をとった。議会から出かけていき、出てきた意見をどう政策に反映できているかどうかを評価する。従来の報告会では、的が絞れておらず、会場ごとの参加者数にばらつきがあった。しかし、形を変えてからは、建設的な意見が多くでてきた。一方課題としては、回数が減ってしまったことである。

議会セミナーの開催は、市が課題とするテーマで先進事例を学ぶ勉強会で、市の職員、関係団体も参加ができるようにした。大学へ、研修に行ったりもしている。年間の予算10～20万円のなかでやりくりしている。議会の活動・体制をより充実したものにしていくためには、調査費、予算、職員の増強にもっと力を入れる必要がある。

《所 感》

甲賀市の議会だよりに関しては、誌面のリニューアルにまず取りかかり、表紙のデザインを変え、文字を大きくし、余白を多く取ることで「読みやすさ」を第一に挙げられたのだと感じた。

説明後の質疑応答で、「市民の意見や、感想などは調べたのか」と質問したが、まだそこまではできていないとのことだった。これから市民対象のアンケートなどで調べていくようだ。小野市議会も市議会だよりの刷新に取り組んでいるが、やはり、読みやすさ、文字の大きさ、余白を利用してのインデックス作成など、自分達にとっては大きな改善だと思っても、市民の感想や、意見等を聞く機会を設けて、「読んでもらう価値のある」誌面を作っていかなければいけないと感じた。

議会改革においては、タブレットを導入し、ペーパーレス化に努められていることと、体制を大きく変え、時代の流れに乗り遅れないような体制に整えようとしているのだと感じた。議員全体のスペックを上げることに力を入れるのは重要なことで、議会だよりの編集を一期目の新人にさせるのもとても効率の良い勉強の仕方だと思う。広報誌のみならず、「記事」を作って他人に読んでもらうことは大変な仕事である。小野市議会議会運営委員会にとっても、私個人にとってもとても勉強になった時間であった。

【第2日】

静岡県菊川市

人口 約4万8千人 面積 94.19K㎡

≪視察項目≫

- 1) 議会だよりの編集について
- 2) 議会活性化に向けた取組について

≪視察内容≫

- 1) 議会だよりの編集について

菊川市の議会だよりは広報特別委員会の委員長が6年間努められていて、思い切ったりリニューアルがやりやすかったのだろうと思う。他市の議会だよりを良く研究されていて、「何を伝えたいか」「どうしたら読んでもらえるか」に要点を絞って改革を実行されたのだと感じた。市民アンケートもすぐに実行されていた。市役所のロビーで実施しただけなので、回答数は少なかったが、きちんと議員がその場にいるアンケート調査で、良い意見、悪い意見どちらの声も直に聞いたことが良いことだと思った。

やはりというか、誌面に対する余白の占める割合が高いほうが読者は手にとりやすく、読んでもらえる確率が高いらしい。自らがお金を払って読む雑誌や本等は、文字数やページ数が多くても望んで読むが、機関紙として押しつけられる感のある議会だよりは興味がある人以外は手にも取らない典型であると感じた。

また、菊川市の議会だよりにには巻頭ページに必ず特集記事があり、市内で頑張っている団体等取材し紹介しているのが素晴らしい企画だと思った。推測になるが、市の広報ならまだしも議会だよりに特集記事を組まれるということで何らかの政治的意図があるのではと邪推されないか深読みされてしまう可能性はないのだろうか。この点が少し気になったところである。加えて、議会だよりの裏表紙に「聞かせてママの声」というコーナーを設けられていて、ほんの一言であるが、菊川市在住の若い世代のママの声を掲載している。年4回の発行なので、そんなに回数を重ねたわけではないが、次はだれに頼むかが悩ましいところで、今までは議員の娘さんや、その友達等に議員からお願いしているようだが、本来なら、傍聴に来られた方の中から若いママを選んで個人的なつながりなど無くても、市政への感想や声を聞かせて頂けるようになれば、理想の形になるのかなと感じた。

こちら甲賀市同様、一般質問の原稿は議員本人が文章も、イラストや写真もすべてを自分で用意している。

発行号ごとにターゲットを変えた特集と表紙の写真を選んでいる。議会と市民の「知らせたいこと」と「知りたいこと」の差を良く考えて紙面を作る努力をしている。

市民アンケートの調査では、多様な年代から良い意見が多数でていた。



※菊川市議会だより

2) 議会活性化に向けた取組について

菊川市議会は議会だよりだけではなく、議会活動や市議会についてもアンケートを実施しており、まずは現状を認識して至らないところは改善していくという形をとっている。その中で一番影響の大きかった「議会だより」のリニューアルに力を注ぎ、市民の参画という観点から、議会報告会のリニューアルにも力を注いだ。

まず市民が親しみやすいようにとネーミングを募集し、募集策の中から全議員で投票し、「議会ふれあいミーティング～語ら座あ」に決定。

市内11地区で開催車座集会、ワークショップ形式で開催した。

今後の課題とあり方

① テーマの選び方

地域にテーマ、誰もが興味のあること

② 年間議会活動を通じての報告会の位置付け

政策討論会や各委員会活動との関連
議会改革でのPDCAサイクルの実施

③ 多様性のある参加者対策

託児、手話通訳、要約筆記等

④ 参加者と議員が意見交換できる車座会議の四つを重点に考える。

ワークショップ形式による対話の場（来場者から意見をもらう）

報告会と政策討論会

年度別に毎回テーマをきめて報告会をし、参加者はだんだん増えてきているが、自治会の役員等が主なため平均年齢が高めなのが課題である。また、報告会とは別に政策討論会を実施。全議員が一堂に会し、各議員が個々の思いを建前でなく本音で徹底的に意見交換を行うことが目的であり、意見を出し合い、最終的に市長への提言をまとめて提出。事業や決算などでチェックするという流れになる。

議会図書室の機能

政策討論会で研究しているテーマにあった本をレファレンスサービスを利用して取り寄せてもらうなど、活発な利用をしている。議会図書室、菊川市立図書館、県立中央図書館が連携・協力しているので、守備範囲はとても広いと推察する。

《所 感》

とにかく市民に読んでもらおう、市民参画してもらおうとの心意気を感じられる市議会の活動だと思った。良いところをどんどんマネしていく、まずは変えてみる。そのネットワークの軽さが、議会の魅力の一つになりえるのだと感じた。



※菊川市議会広報特別委員長ほかと議場にて

平成30年8月8日

小野市議会議長
前田光教様

前田光教 ㊟

行政視察報告書

先般、実施しました議会運営委員会行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日

平成30年7月24日（火）～平成30年7月25日（水）

2 視察議員

岡嶋正昭（委員長） 加島淳（副委員長） 椎屋邦隆 山本悟朗
河島三奈 山中修己 川名善三 前田光教 岸本浩幸（事務局長）



3 視察先及び調査内容

- (1) 滋賀県甲賀市 「議会だよりの編集について」
「議会活性化に向けた取組について」
- (2) 静岡県菊川市 「議会だよりの編集について」
「議会活性化に向けた取組について」

4 調査結果

[第1日 滋賀県甲賀市]

人口 91,500人（平成30年4月1日現在） 面積 481.62km²
年少人口比率 13.4% 老年人口比率 26.0%（平成29年1月1日現在）
平成28年度財政力指数 0.71 将来負担比率 68.8%
議員定数 27人 内女性議員率 14.8%

●滋賀県甲賀市の概要

甲賀市は、滋賀県の最南端に位置し、大阪・名古屋から100km圏内にあり、新名神高速道路のICを3ヶ所持つ「便利な田舎」とされ、その東南部は、標高1,000mを超える山々が連なる鈴鹿山脈により、西南部は信楽盆地とこれらに続く丘陵性山地により各々三重県、京都府に接している。特に、鈴鹿山系を望む丘陵地で、野洲川・杣川・大戸川沿いに平地が開け、また森林も多く琵琶湖の水源涵養、水質保全にも重要な地域となっている。

甲賀郡旧7町のうち5町が合併して誕生し（残り2町は湖南市になった）、全国的には信楽焼や甲賀忍者の地として知られており、市の北部を東海道が横断し、江戸時代には水口宿と土山宿が置かれていた。

「甲賀」の発音には「こうか」と「こうが」の2通りがある。市名決定の際に決選投票となり、その結果、従来の甲賀郡（こうかぐん）の発音を引き継いで清音の「こうか」を自治体名とした。「こうか」は、古代にこの地方を治めた百済系豪族鹿深氏に由来するとされる。甲賀駅や甲賀土山ICなど、市内の公共施設における「甲賀」はほぼ「こうか」と発音する。これに対し、民間企業の社名などでは「こうが」と発音するものも少なくない（甲賀カントリークラブ・甲賀健康医療専門学校等）。

南に隣接する三重県伊賀市とは、伊賀と甲賀に因み忍術対決が行われる。負けた市は勝った市のPRポスターを1年間掲示することになっている。

◀視察項目▶ 議会だよりの編集について・議会活性化に向けた取組について

●甲賀市議会広報特別委員会

○委員会8名構成（各常任委員会から2名・会派他）任期2年 ○企画・編集担当

●甲賀市議会だよりの発行回数・形態・部数・配布方法等

○発行回数 → 年4回（2・5・8・11月）

○発行形態 → A4・24ページ（20P有）・

全Pカラー・1段15字×25行

○発行部数 → 約33,100部

○配布方法 → 新聞折り込み・約600部個別郵送・
各施設設置（配布）・音読CD配布
（18名）・議会報告会配布

○一般質問コーナー → 1議員1／2ページ・関連
写真・イラストの掲載必須

写真1枚の場合 → 510字（前620字）

写真2枚の場合 → 450字（前560字）

○QRコードの活用 → 議会HP・議会録画映像



●企画から編集・発行の流れ

第1回 議会開会直後（P数・企画内容・担当割・原稿締め切り）

- 第2回 議会閉会直後（原稿整理・割付作業・印刷業者に出稿）
- 第3回 初稿の校正（未原稿確認・全体の校正）
- 第4回 2校目の校正（未原稿埋め）
- 第5回 最終校正（2校目訂正無の場合正副委員長にて校正）

●議会だよりの編集のポイント

- 市議会の活動内容、市政にかかわる問題など、市民にできるだけわかりやすく、親しみのある紙面づくりを心掛けている。
- 議会ことばでなく、市民にわかりやすいことばで表現している。
- 表紙（広報誌の顔）として親しみのある写真を大きく掲載する。

※45号（平成28年2月）から「こうか市議会だより」→「**あなたとつなぐ甲賀市議会だより**」に変更した。甲賀忍者の街らしさを出すため「こうか」を漢字に改め、堅苦しくならないよう平仮名で「あなたとつなぐ」を入れた。

●甲賀市議会広報特別委員会の特徴

- 広報特別委員会は1期目の議員が多い → 議会を学ぶチャンスがある
- 議会の結果ではなくどういう意見が出されたか（考え）を掲載
- 要領等の定義付けは行っていない
- アドバイザーは設置していない

●編集における課題と今後

- 企画記事・特集ページにどれだけ力を入れるか
- 各議員から提出される原稿の書き方と改善（書き方統一・簡単なことば）
- レイアウト・編集に工夫（時間の制約）
- 表紙の写真取材
- 文字の大きさ
- 議会の臨場感が伝わる紙面
- 見出しの工夫・訴求力（本文への案内版・ガイド役）
- 改選後の議員紹介コーナーを裏表紙で検討中

●議会だよりの検証

- 近畿市町村広報紙コンクールで審査（毎日新聞審査評価で検証）
- 第24回 優秀賞 第25回 優良賞 第27回 奨励賞 第30回 優良賞

●議会活性化に向けた取組

- 平成25年9月甲賀市議会基本条例制定（平成28年3月まちづくり基本条例制定）
- 議員定数 → 平成29年10月改選後（議員定数27人→24人）
- 常任委員会の編成 → 4常任委員会を3常任委員会（総務・厚文・産建）

- 予算・決算特別委員会 → 常任委員会とし議長を除く全議員が委員配属
- 委員会開催 → 同時常任委員会を中止し異時開催
- 一般質問 → パネル使用を採用
- 質問 → 代表質問後の一般質問通告書の修正可（会派等代表質問有）
- 議会報告会 → テーマを決め市民との意見交換会形式
- 議会セミナーの開催 → 先進事例の勉強会（市職員・関係団体参加可）
- 委員会 → 委員長報告の簡略化・委員会資料の事前配布
- 政務活動費 → 領収書HP公開
- 議会のICT化 → タブレットの導入（予定）・議会中継のスマートフォン対応
- 議会だより → フルカラー化

《所感》

今回、甲賀市にお邪魔し、議会だよりを主としての視察をさせていただきました。甲賀市議会では、8名の広報特別委員会の皆様に同席頂いての機会となり、改めて感謝をしている状況です。

さて、視察についてですが、議会だよりの役割を加味しつつも、広報特別委員会への配属は、労力を期待するのではなく、議会を学べる機会として議会だよりの編集を位置づけている考えに興味を持ちました。議会だよりの編集は労力を伴い、できれば配属を辞退したい考えが多いと思いますが、ポジティブに考えられる議会だからこそ、議会だよりも充実するものと感じています。



現状の小野市議会においては、今年度はゼロベースで議会だよりの有り方（必要性）を追求し、翌年度には刷新した議会だよりを市民の皆様に提供し、市民と議会、執行機関と議決機関、それぞれが自治体の充実を願い、地域力や市民力の向上へと繋がればと願っています。

地域が地域を、地域が人を、人が地域を支え合う、心の底から住んで良かったと感じられる基礎自治体を目指したいと思います。そのひとつの広報手段が議会だよりと考え、小野市議会の情報公開に向けて邁進していきたいと感じています。

【 第2日 静岡県菊川市 】

人口 47,900人（平成30年4月1日現在） 面積 94.19km²
 年少人口比率 14.2% 老年人口比率 25.5%（平成29年1月1日現在）
 平成28年度財政力指数 0.75 将来負担比率 41.0%
 議員定数 17人 内女性議員率 11.8%

●静岡県菊川市の概要

2005年（平成17年）1月17日、小笠郡の菊川町と小笠町が合併し誕生した。スローガンは「みどり 次世代～人と緑・産業が未来を育むまち～」気候は総じて温暖で、深蒸し茶の里として知られる茶産地である。茶業のほか、茶鋏や茶摘機、自動車関連部品、精密工作機械などを生産する企業が立地する工業都市でもある。

菊川市に駅前を中心とした市街地が形成され始めるのは、明治維新後に人々の往来が村の境を越えて自由になり、旧国鉄東海道本線が開通して菊川駅（当時は堀之内駅）が開業されてからである。その後、現在では廃線となった堀之内軌道が市域を縦断し、現在の県道37号線沿いが市街地化され始めた。

≪視察項目≫ 議会だよりの編集について・議会活性化に向けた取組について

●菊川市議会広報



名称	→ 菊川市議会だよりの「議会のひろば」
回数	→ 年4回（平均16ページ）
配布先	→ 市内全戸（15,000部） 金融機関・医療機関配置（57施設）
配布	→ 配置分は議員が配布
編集	→ 編集委員（議員5人）
予算	→ 1,118,880円
視察先	→ 東京都あきる野市

●市議会に関する市民アンケート調査・結果

○平成28年5月議会の活動に関する市民アンケートを実施（一部に議会だよりの内容）

対象者 → 菊川市内在住・20歳以上男女

対象数 → 2,000人

抽出 → 住民基本台帳（無作為抽出）

期間 → 平成28年5月2日～25日

回収 → 郵送配布・郵送回収

Q) 議会だよりを読んでいるか？

→ 毎回読んでいる21.0% 時々54.0% 読んでいない24.0%

Q) 市議会の情報入手方法は？

→ 議会だよりの52.0% 得ていない27.0% 議員のたよりの13.9%

議員報告3.2% 議会HP2.0% 議会報告会1.3% 傍聴0.4%

○調査結果の検証 → 議会活動内容の周知・情報発信不足

親しみやすく、信頼される議会運営に向け、情報発信の有り方について、市民の皆様方から広く意見を伺い、取り入れながら開かれた議会を目指していく。

●議会だよりリニューアル

○議会だよりとは・・・

市民を代表する議会の活動を、市民に伝え、さらには市民参加、市民自治に繋げる最も身近なツールであると検証する。

○リニューアルの目的

これまでより手に取ってもらい、読んでもらえる議会だよりとし、議会の活動、議員の活動を市民に分かりやすく伝えることで、市民との距離を縮め、開かれた議会を目指す。議会活性化への取組、誰にでも分かりやすく親しみやすい広報の両立を図る。

○リニューアル検討の経過

- ①. 平成26年 7月28日 前年度の提案を受け、あきる野市を視察
- ②. 平成26年 9月 9日 視察内容の検証・視察内容を菊川市で活用検証
- ③. 平成27年 4月30日 委員会再編・リニューアルスケジュール決定
- ④. 平成27年 6月16日 議会だよりアンケート詳細の決定
- ⑤. 平成27年 7月 1日 市役所ロビーでアンケート調査実施（21日迄）
- ⑥. 平成27年 8月 5日 アンケート調査結果取り纏め
- ⑦. 平成27年10月27日 業者打合せ・具体的リニューアル内容協議

●あきる野市視察等での検討内容

- 興味を引く特集と表紙（ターゲットの絞り込み・タイトル・文字効果）
- 読みやすさ（導線・ホワイトスペース・統一感）
- 裏表紙（夢を語るコーナー・啓発的記事）
- 行政用語をわかりやすい言葉に・知らせたいことと知りたいことの差
- ピックアップ方式（読んでほしい量と読める量）

●今後の課題

- 担当者が変更になった後の継続性（新しい担当者の理解）
- 表紙のアイデア
- 分かりやすい見やすい内容の精査
- 市民の声を頂く工夫（クイズ・プレゼント）
- 読者の意見聴取（フィードバック）
- 議会の自己満足の改善になっていないか検証
- 任期後半に定期的な見直しを行う必要性
- コスト意識をもつ必要性
- 広報広聴委員会の設置検討



●議会活性化に向けた取組

- 常任委員会・委員会
 - ・常任委員会（総務建設・教育福祉）
 - ・特別委員会（予算特別）
 - ・議会運営委員会（7名）
 - ・議会だより編集委員会（5名）
 - ・議会報告会企画委員会（7名）
 - ・政策討論会幹事会（5名）
- 議会報告会ネーミング募集 → 議会ふれあいミーティング「語ら座あ」
- 高校生版議会報告会
- iPad・タブレット導入（ペーパーレス化・全議員貸与）

《所感》

菊川市議会では、東京のあきる野市議会視察により、議会だよりをリニューアルされた。議会だより「議会のひろば」を拝見させて頂いても、白部分の空間は多く、短時間で読むことができると感じます。

前段の所感でも記していますが、小野市議会では、議会だよりの役割を再確認し、どう進化させるか協議が必要であると重く感じているところです。

《甲賀市・菊川市の議会だより視察を終えて》

両市共に議会だよりの充実を図られていることは周知のこととし、では、小野市議会としてどう考え、どの方向で、何を伝え、市民の方々に何を求めるのか、早速、議論に値するものとして視察を終えました。

あくまでも私感ではありますが、行政も経営として市民の納得行政を運営する小野市としては、議会だよりもその理念を礎として、経営基盤としての「**継続性**」、議会基本条例を制定せず、倫理感をもつ議員による組織である議会の「**報告義務**」、そこには何が決まったかの結果だけでなく、何を議論し審査したか、また、そのプロセスにおいてどんな意見がでたかを市民の皆様にお知らせする必要性を感じています。それらに加え、法的機能をもつ議会として「**正確性（真実性）**」は必要であり、そして、議会としての大きな枠組みでの意見、市民の皆様が求める納得できる「**方向性**」、それらの基本的な方針は必要ではないかと感じています。

以上の考えをもって、議会だよりの刷新に取り組み、未来に向けた議会の構築を図っていければと思うところです。